

特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展」②

「ほっとやまはく」

タイム②



7月15日から始まった特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展」は、しあわせ動物写真家の福田幸広さんが世界、日本、山口で撮影した写真や映像により、野生動物の子育てに迫りました。

夜行性動物をみる

夜行性の動物たちを観



日本で一番小さなネズミの力ヤネズミ。しっぽを茎や葉に巻き付け、後ろ足で茎を握り採食する

アナグマ、オオサンショウウオ

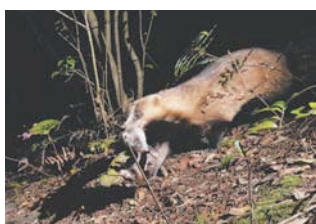


オオサンショウウオの幼生誕生の瞬間（赤丸の中に幼生）

長期継続して動物を観察することにより、アナグマの赤ちゃんが、初めて巣穴から出てくるのはいつ頃なのか。オオサンショウウオの幼生がいつ頃誕生するのかが分かれます。展示しているアナグマやオオサンショウウオの写真や映像は、ともに5年以上の長期の観察により、撮影された貴重なものです。



初めて巣穴から出てきたアナグマの赤ちゃん



赤ちゃんをくわえて運ぶアナグマのお母さん



バイオロギング機器のアナログからデジタルへの変遷

察する機器として、動物たちの体温を感じできるサーマルカメラが特に威力を発揮しました。5センチに満たないネズミ類の動きを捉えて、暗闇の中でヒメネズミが木を登り、枝を伝って採食する様子や、草原で暮らす力ヤネズミがどのように巣作りを行い、子を育てているかを観察できるようになってきました。今まで見えなかった行動が観察できるようになると、次どのような行動が起こるか予測できるようになり、どこにカメラを設置



力ヤネズミは口移しで赤ちゃんに食べ物を与える



ボルネオオランウータンの子育て



クロザルの群れの中での子育て

写真と映像による動物たちの子育て

サル仲間である霊長類の多くは、ニホンザルのように群れ生活をする種が多いのですが、ボルネオオランウータンは、熱帯雨林のジャングルの樹上で、単独で生活します。子はお母さんの元に約7年間とどまり、生活のすべてを習得します。

母さんと一緒に食べることで識別していきます。塩分などのミネラルを補給するため、地上の「塩場」に立ち寄ることもあります。地上に降りることがほとんどないオランウータンにとっては、お母さんに教えてもらえない限り分からない秘密の場所です。

一方、同様に熱帯雨林で暮らすクロザルは、群れで生活しています。群れの中で赤ちゃんは大切に育てられます。群れは血縁関係のある雌と、その子どもたち、血縁関係のない雄からなります。真っ黒い顔のクロザルの赤ちゃんの顔は白く、保護する対象として、大切にされます。お母さんや群れの仲間が顔を見つめながら話しかけます。赤ちゃんはだんだんと豊かな表情を身に付けていきます。クロザルは、インドネシアのスラウェシ島のみに生息する絶滅が心配されている種です。この特別展では、仲間同士の遊びなどの日常生活の様子をオリジナル映像により、じっくり見る事ができます。

て、別の巣穴に移動することがあります。そのため、次にとどの巣穴に移動するかを予測する必要があります。アナグマのお母さんは、赤ちゃんの首の付け根をくわえて、一頭一頭運びます。巣穴には自動ビデオカメラを設置して、出てから帰ってくるまでの時間が分か

バイオロギング

バイオロギングは、観察が難しい野生動物の行動や生態を、センサーを内蔵した機械（データロガー）で調べる手法です。展示では1970年後半に、アザラシやペンギンなど南極の動物を対象に開発が進み、90年代に入るとさらにアナログから

デジタルに、多機能・小型化が進んで、GPS（全地球測位システム）やビデオカメラ機能を備え、クジラから飼育猫まで動物の行動の解明に役立っています。

特別展は今月28日までです。世界、日本、山口の野生動物の子育てや、行動・生態をぜひご覧ください。

田中浩（動物担当学芸員）

▽次回31日まで。

山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで

